

自蹊庵便り

令和元年 文月

NO 138

くお人重ね 時重ねく

この度は東北地方へのツアー講演、いずこも目に染み入るほどの青葉に抱かれての旅にございました。先号の自蹊庵便りを道中移動しながら一筆添えを計るも遅々として進まず。多くの皆様に遅配余儀なしに至りましたこと、先ずはお詫び申し上げます。

また、訪れた先々での身に余る御厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

お声がかかるままに動かされ、車を走らせ、優に一、000キロを越える旅にございましたが、心残りは一席一席茶事を終えながらの途中寄り道講演というスケジュールを組むことが出来なかったことにございます。

お一人お一人の御縁というものの奇跡にこうべ頭を垂れつつも、束の間の出逢いと別れ、お人も時もおしさととの背中合わせにご

ございました。

講演だけでツアーを組む結果となりましたのも、七十六歳というよわい齢を迎え、そう多くの方々との茶事のお約束は果たせそうになくなってきていることにございます。

誠にあおも思い、こうも思い、うろろうしている間にも、お客様からは「いつこちら方面に茶事行脚をなさいますか」と、待っていてくださるも、齢だけは時を待たず、容赦なき過ぎゆきにございます。：であるがゆえに、この度の講演だけの成り行きになりました。

そう多くの事は出来なくなってきたこと、長い間、お便りなどで温かいお言葉を賜りながら、一度もお目にかかっていない方々も多く、こうした背景からのツアー講演にございました。

誠に誠にお一人お一人の真心にお答えす

る術すべもなき旅にございましたが、多くの皆様からの心土産を賜って無事十五日間の旅を終え、帰ってまいりました。

最後に寄らせて頂いた栃木で二席、茶事でお迎えて頂きましたことがせめてもの救いであつたかと…。

御縁えにしというものの意味の深さに改めて考えさせられます。



象形文字では、腹の垂れ下がった豚の意に糸が添えられることで、布のはしに垂れ下がったふち：と有り、単にゆかりとか関係、結びつきぐらいしか理解していないながらも、他生の縁という思いは実感いたしておりました。すべては前世からのお導き、布のはしに垂れ下がったふちから思われるのが、袖すり合うも他生の縁という言葉でしようか。

世の中には偶発的な事故に巻き込まれ、

命を落とすような不条理、理不尽な事の多い現実の中、一方では百歳現役を全うするお人も珍しくなくなりつつある昨今、縁えにし

というものが他生のものなれば、寿命というものも前世からの約束事なのでしょうか。

多くの身に余る御縁を賜り、緑豊かな山々を眺めながらの帰路の車窓に、縁というものに思いを巡らすことの多い旅にございました。

そして今一つ、緑野を眺め眺めて思いますことは、日本の豊かな季節の恵みに感謝するのは朝あしたに夕ゆうべに日々のことにございます

ますが、この太陽を浴びた緑というものがなければすべての生命体はこの世に存在しないということ、と云うことは太陽の光をいっぱい浴びたものを食するということが大切さに思い至るのです。太陽エネルギーを捉えている唯一のものが植物からの緑、葉緑素だとすれば生命体の源はこの葉緑素なのでですね。中学生の頃には理科の時間にその生命素のしくみは、炭酸同化作用などという言葉でしっかり誰もが頭に入っ

る事柄ですのに、今、私達の食生活はどうでしょうか？サンサンと太陽の光を浴びた食材を口に運んでいるでしょうか。

基本の続きをもう少し云わせて頂くならば、二酸化炭素を還元して炭水化物を作り出す、糖のことですよね。こうした単純な無機物から複雑な糖を作り出し、この糖質をもとにして澱粉、脂質、蛋白質、酵素、ビタミン等、さまざまな全成分を作り出している植物の偉いしくみ、こうしたことの営みはどんなに科学が進もうとも成し得ることではないように思います。

この植物の不思議な偉業なくしては、私達の命は有り得ないということをいつも思うのです。解りやすく云えば、太陽の光をいっぱい浴びたものを私達は口から体内に運ぶことが大切です。海の中の魚たちも降り注ぐ太陽の光によって同じような働きがあるとされています。この命の源の営みに今一度振り返ってみるところに時代は差しかかっているように思えてなりません。大切なことはこんなにも緑豊かな地形に

生まれ、普く存在する命の素、葉緑素は合成することは不可能とされています。

豊かな緑ある所、清き水あります。誠に日の本は神宿る神秘的な国であることを実感した旅にございました。

誰だったか忘れてしまいました。ある科学者がく自然界はきわめて完成度が高く神様という匠たくみによって企画されたものだと確かそんな内容であったように記憶しております。

行く先々で温かくお迎えくださった東北の皆さま、茨城、福島、宮城、青森、秋田、岩手、新潟、栃木と八県に渡る行脚、心はずの何とも切ない旅にございましたが、温かいかずかずの御支援、御親切に心よりお礼申し上げます。

皆さまのお健やかな齡重ねを念じつつ…。

深謝

令和元年

水無月吉日

道志 水汲み小屋にて

茶事教室の御案内 東金教室

文月の茶事（七夕・夕ぎり・朝茶）

七月 十四日（第二日曜）夕ぎり

七月 十五日（第二月曜）夕ぎり

席入 午後五時

点前担当者、水屋実習者 十時半に

大網駅にお迎えに上がっております。

七月 十六日（第三火曜）朝茶

席入 午前六時

会費 一万円（レギュラー者）

一万二千元（単発参加者）

夕ぎりは、小灯料（二千元）

の御協力をお願いします

○連日研修者は、翌日は五千円参加です。

○遠方よりの参加者は十五日の夕ぎりに続き、十六日の（午前九時解散予定の）朝茶に参加することをお薦めします。

○宿泊希望者は、早めにお申し込みください。

七名まで一泊二千元です。

湯河原教室 口悦会

七月二十一日（第三日曜）

旬の食材を楽しむ会

七月二十二日（第三月曜）

利休会記を読み解く会

八月は教室は休みです。

会費 一日五千元

二日間 八千元

申込は、事務局 服部 宏子様

神奈川県足柄下郡

湯河原町宮下75713

046512015932

利休会記を読み解く会

七月二十七日（第四土曜）

午前十時から正午

一服と昼食込みの場合

午後一時半まで

八月は教室は休みです。

会費 三千元（会のみ）

五千元（昼食・一服付）

※要予約です。

会場 羅漢亭（目黒羅漢寺内）

目黒駅よりタクシーが便利です。

申込は、ファクス又は半澤携帯に

ファクス047515412518

携帯 090190011134

連絡がつかない場合は、

羅漢寺の会代表中山様に御連絡を。

携帯 0901523416113

七月の京都教室の詳細

会場：大徳寺瑞峯院内余慶庵

七月六日(土) 準備

七月七日(日) タダり茶事実習

準備 正午

席入 午後五時

七月八日(月) 七日と同じ

七月九日(火) 朝茶茶事実習

席入 午前六時

◎九日は朝茶に変更です。

朝茶後は、後片付、掃除、点検後、

正午解散予定。

優食会は祇園川上にて、スタッフの

他は自由参加。会費一万円(飲物込み)

会費 二万円(レギュラー)

二万三千元(年三回以上参加)

二万五千元(単発参加者)

タダりは小灯料(二千元)の

御協力をお願いします。

※連日参加者の会費について、

一日分は正規の会費、

他の日は一日五千元の研修費

となります。

宿泊場所

コンドミニウムイルヤ

一泊 五千元

きらら山荘(関西セミナーハウス)

シングル一泊六千五百円

※利休会記を読み解く会は、

三日とも、午前九時半～午前十一時

九日は後片付と同時展開となります

ですので、御了承ください。

道志村での休日のお誘い

八月一日～三日の間は、ゆっくりと

森林浴と温泉の休日は如何ですか？

ジビエ料理も味わえます。

会費 一万円(宿泊費込み)

自由参加です。

御希望の方は、半澤まで御連絡を

(090-19001-1134)

交通は山中湖バス停までお迎えに上がります。

湿灰作りの御案内

※炉灰をお持ちでない方も参加可能ですので、御相談ください。

湿灰は盛夏の中での一日仕事です。一人での作業は大変ですので、毎年場所を変更しながらも継続しております。

三十一日が雨の予報の時は

二十九日に変更する場合があります。

今年は五月に茶事教室としてお世話

半澤携帯

話になりました大原の里若水庵様に

090-5894-8193

再び御協力頂くことになりました。

御都合の宜しい方は是非！

奮って御参加の程お待ち申し上げます。
しております。

日時 七月三十一日（水）

午前九時～午後四時

会費 五千円（昼食込み）

御持参頂くもの 軍手、帽子、炉灰